

第6回羽島市幼保小連携推進協議会

日 時	令和7年1月17日（金） 15時00分～16時30分
場 所	羽島市役所本庁舎 3階 302会議室
出席者	<p><b>【委員】</b> 西川委員長、安藤(理)副委員長、高砂委員、安藤(賢)委員、吉田委員、木下委員</p> <p><b>【事務局】</b> (教育委員会) 森教育長、不破事務局長、高橋学校教育課長、久保村同課幼児教育係長、中村同課指導係長 (健幸福祉部) 熊崎子育て・健幸担当部長、高田課長、小森課長補佐</p> <p><b>【傍聴者】</b> 2名</p> <p><b>【参観者】</b> 1名</p>
内 容	<p>1 開会 2 議事</p> <p>議題（1）第3回幼保小連携に関わる調査の結果について <b>【委員】</b> ・アンケートの結果は確かに伸びていると数値的に確認できる。</p> <p>議題（2）モデル小学校区の実践について（最終報告） 堀津保育園保育士・堀津小学校教員が説明</p> <p><b>【委員】</b> ・幼児教育で培ったこどもたちの興味関心を大切にして、小学校教育が行われたことがすばらしい。 ・保護者への周知や説明のあり方が課題とあるが12月の保護者の説明会では、どのようなことを説明したのか。</p> <p><b>【堀津小学校教員】</b> ・4～7月の実践を遊びと学校生活を分けて保護者の方に説明した。</p> <p><b>【委員】</b> ・学習指導要領総則にあるように、遊びの大切さを伝えてもらった。その時、宿題の量を増やしてほしい等の意見はなかったのか。</p> <p><b>【堀津小学校教員】</b> ・保護者の方からの意見はなかった。今後は学級懇談会等を利用して、意見を聞いていくことを考えている。</p> <p><b>【委員】</b> ・このような小学校の取組みによりこどもたちは「小学校が楽しい」と思えるようになる。他の小学校でも実践して多くの子が活躍できる環境を整えてほしい。</p>

- ・入学説明会においてこのような説明があるとよい。
- ・全ての小学校、幼児教育施設でそのような動きをして、保護者の意識を変えていくことが大切である。

**【委員】**

- ・幼児教育と小学校教育を線でつないでいくことの大切さを感じた。小学1年教員や教務主任だけの理解ではなく、他の学年の教員をはじめ、保護者への理解も深めていけるとよい。
- ・規模の違いや児童の実態から、学校ごとに受け止め方の違いがあると感じる。この取組みを広めていくために、モデル小学校区担当が他の小学校区に説明するような取組みがあるとよい。

**【委員】**

- ・幼児教育、学校教育のものとして捉えてきたものをつなげていく作業は大変だったと思う。こどもの発達や育ちを共有し、カリキュラムを一緒に作ることが大切だと感じた。自分の園、校区でも積極的に投げかけていきたい。

**【委員】**

- ・保護者の立場で言えば、こどもが小学校に入学するときにこうしなければならないという固定観念があって不安だった。正しい情報を理解することで保護者も安心する。
- ・モデル小学校区の発表のこどもの楽しそうな笑顔から、遊びを踏まえながら勉強しているというのを感じた。主体的に活動できる工夫をされていて、こどもたちの成長につながるよい取組みだと思う。

**【委員長】**

- ・「羽島市の架け橋プラン」のリーフレットには、具体的な事例を掲載されている。学級懇談会などで活用できるとよいと思う。

**【委員】**

- ・モデル小学校区の取組みが、他の小学校区にも広がるとよい。期待する子供像の共通理解をしながら指導する大切さを感じた。

**【委員長】**

- ・接続期といわれる4,5月だけでなく、年度の後半でも充実した活動計画が示されていた。期待する子供像を用いて、こどもが主人公になる活動を明確にした実践は、羽島市の幼保小の連携に対して大きな投げかけになった。

議題(3) 諮問事項の答申について

**【委員長】**

- ・羽島市における幼保小のあり方について答申。令和5年1月13日諮問のあった、羽島市における幼保小の連携のあり方について、下記の通り、本協議会での審議内容を報告書としてまとめた。本日は、案をとり答申書及び報告書を教育委員会に答申として提出してよいか。

**【委員】**

- ・委員了承

**【委員長】**

- ・答申書を読み上げ、教育長に渡す。

**【委員】**

- ・2年間の実践をどのように広げていくかというのが課題だと思う。年々増え続けている不登校児童に対しても、やはり安心した環境を整えるとともに、やる気をもった子どもたちを育てることが重要である。
- ・小学校は幼児の教育、幼児教育施設は小学校教育のことを共に学ぶ環境を整えることで、さらによりよい教育につながるのではないかと思う。

**【委員】**

- ・子どもにかかわる仕事をしていると、課題に目が向きがちになる。幼保小の接続というのは大人の課題であると常々思っていた。子どもの声を聴いていくとか、子どもの主体性を大切にする幼児教育を進めていきたいと思う。

**【委員】**

- ・保護者の自分も学ぶこと、考えさせられることがあった。子どもたちの主体性を大事にしていく教育のあり方が、今後大切になる。
- ・一人一人の個性を大事にするとともに、子どもたちが安心して学べる環境を整えることが大切だと感じた。

**【委員】**

- ・連携や接続が大切だというのは感じていた。しかし、その具体的な実践を見ることは少なかった。羽島市で行った実践は必ず子どもたちのためになると感じた。ぜひこのモデルが市全体の取組みの第一歩になり広まることを期待したい。

**【委員】**

- ・全国的に実践例の少ない部分に挑戦してもらえた。実践が少ないからこそその不安もあったが、委員の建設的な意見で協議会が進んだ。
- ・本実践を各小学校区に広げていくためにも、羽島市教育委員会を中心とした連携体制も整えていくとよい。

**【委員長】**

- ・国でも同じような「架け橋特別委員会」というものが開催されている。そこでの最大の課題は「小学校の前倒し教育ではない」というものである。
- ・遊びで存分に発揮した子どもたちの主体的な学びに向かう姿を、小学校教育でそのまま活かしてほしい。
- ・幼児教育の質というものを保護者や地域の方にも理解してもらうことが大事である。幼児教育の面白さ、よさを伝え、幼保小の連携の取組みは大事にしていきたい。

**【教育長】**

- ・ここからがスタートである。羽島市の幼保小の連携のみならず、これが特別なことでなく教育文化、スタンダードになるように検討していきたい。
- ・最近の世の中は目的志向や効率志向とよく言われるが、まさに幼保小の連携というのはそういったものでは語れない。子どもの声を聴くなど、丁寧に時間をかけて、子どもたちを支援していくことが幼保小の連携の一番の基本ではないか。
- ・小学校での先生方の意識に課題があるというならば、教育委員会、学校ともども力を合わせて取り組んでいきたい。